

JSURPまちづくりカレッジ2016『人口減少社会を読む2』特別企画

人口減少社会において マスタープランに何が出来るか？

～日本型のプレイス・ベスト・プランニングを考える in さっぽろ～

小泉 秀樹 × 村山 顕人 × 高鍋 剛



日時：2018.6.30 12:30- 15:00
会場：さっぽろテレビ塔 2階会議室
主催：認定NPO法人日本都市計画家協会 (JSURP)
参加費：1000円
申込み：Jimukyoku@jsurp.jp まで

人口減少社会において マスタープランに何が出来るか？

主旨説明

本格的な人口減少社会が到来し、都市は発展の時代から成熟の時代へ、さらには地域を衰退させず持続させるための仕組みが求められています。また一方で自然災害は年々巨大化、激甚化し、安全への備えも必要となっている他、超高齢社会への対応、環境共生、コミュニティ再生など、都市政策上の課題は多様化複雑化しています。そのような背景から、制度改革も進み、立地適正化計画をはじめ、今までにはないタイプの計画が求められています。

一方、市民や企業の動きも以前とは変わり、様々な場面で官民連携が進み、市民活動も都市空間の中で様々なアクションとして展開しつつあります。プレイス・メイキングやタクティカルアーバニズムなどの動きは、公共空間を戦略的視点から改善し、都市を有効に活用しようとする新しい動きですが、これまで行政が作成していたマスタープランとは無縁のように見えます。

このような中、アメリカでは「プレイス・ベスト・プランニング」という計画手法が注目され、特に衰退傾向の著しい都市において、マクロな分析視点と、ミクロなコミュニティの視点から計画を組み立て、都市を改善しようという動きが出てきています。

日本とは少し背景が違いますが、都市成熟の時代における、都市計画のあり方や視点を大きく見直すべき時期に来ていると考えられます。このような問題認識から、このセッションでは、これからのマスタープランのあり方について、事例を通じて考えたいと思います。

プログラム

1. このシンポジウムの背景・ねらい
2. これからのマスタープランに求められる要素（仮説）
3. 計画理論の変遷とプレイス・ベスト・プランニング
4. 北海道でマスタープランをどう使うか
5. 本日の議論のまとめ

報告・討論者

小泉 秀樹

(JSURP/東京大学都市工学科教授)

村山 顕人

(東京大学都市工学科准教授)

高鍋 剛

(JSURP/都市環境研究所・主任研究員)

※認定特定非営利活動法人 日本都市計画家協会 (JSURP) は、暮らし働き楽しむ場である「まち」(都市やそれをとりまく地域)を、安心して快適なそして美しいところになりたいと考えています。そのために行動するひとたちが、全国から参加してつくる団体です。「JSURPまちづくりカレッジ」は、まちづくりや都市計画とその関連する領域についての交流、学習とネットワークづくりの場です。北海道での第1回目となる今回は、人口減少社会における都市計画の役割と新たな展望・可能性を見出す場として開催いたします。